

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団光久会		
事業所名	グループホームふなぎら		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を目標に掲げて活動しております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。専業主婦だった方、学校の先生だった方、大工さんだった方。その方の人生からヒントを頂戴して、その方たちの得意な事、こだわっている事、好きな事等を探り、自宅と比べ窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと考えております。また、コロナの中で全然できておりませんが、地域に開かれたグループホームになるよう、様々な取り組みをしたいと考えております。今期は入居者様の体力維持・向上を事業所目標としまして、日々の散歩や畑仕事、樹木の水やり等を積極的に実施しております。そしてアフターコロナも見据えて、全員での外出を目標にして活動の動機づけにして頑張っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 10 月 26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「自立支援の実践」に向け、できることは継続して行ってもらえるようにしている。食事の時は配膳やテーブルふき、お茶を入れる等役割を分担して利用者に関わってもらっている。職員と利用者が一緒に作る日を増やし、楽しんで取り組んでいる。掃除も共用部分、居室ともできることはお願いしている。また、体力維持向上のために散歩や畑仕事などできるだけ外気浴を行い、雨の日や暑さの厳しい季節には屋内で体操やアクティビティを工夫して楽しく体力維持をしている。今年度はコロナのためお弁当を持って、春野町公園に行く予定である。ヒヤリハットは宝と考え職員に提出を促している。「眠りスキャン」や「服薬管理ロボ」を使い、子連れ出勤を可能にしたり、働きやすい環境にしている。職員面接や家族アンケートから情報共有しており、働きやすく訪問しやすい事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実践」です。個々の職員の意識、理解度に差はありますが、現在はその意識統一をしています。	事務所の理念の「自立支援の実践」にむけ、年間目標を立てている。管理者が随時職員と面接を行い、理念の意識と実践の確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を届けたり、散歩時の挨拶をする事で日常的に交流しています。	自治会に加入し、地域の行事は把握しているが、今期はコロナ禍で中止になっている。コロナ禍であっても散歩はまめに行っている。近所の人に会ったり、畑仕事で挨拶を交わすなど日常的な交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思ひます。	今年度は書面開催で行っている。開所まもなくコロナ感染予防のため参加者に出席をお願いできていない。今後は家族や地域の住民に声をかけ、参加してもらう予定である。	運営推進会議が開催されたら、意見交換を行い、出された意見を議事録にして職員や家族や地域の住民に閲覧してもらい運営に活かしてください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早め早めにしていく。協力関係は築けていると思ひます。	事務所内に居宅介護事務所が併設されているので、浜松市の介護保険課とは意思疎通ができていく。法人本部は、市の担当課に質問や相談をして協力関係を築き、その情報を各事業所に知らせる仕組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方に身体拘束しても、状況が悪くなるだけなのでしておりません。玄関は日中施錠していません。	マニュアルは整備され、委員会は月に1回法人本部で管理者が参加して行われている。内容は職員に書面で知らせていく。研修は年1回とケース検討の研修を随時行っている。	

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の全事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強会を開催している。また、参加できない職員のためその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の全事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強会を開催している。また、参加できない職員のためその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ2名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者・外部見識者とじっくりと意見できるような運営推進会議を集ってできませんが、文書での形を取らせて頂いております。	コロナ禍で家族の面会は窓越しかりモートで行い、日頃の利用者の様子はフェイスブックにアップしている。管理者は文書や電話で利用者の様子をこまめに家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとても多く助かっている。特別な機会を設けなくても業務内で意見・提案を聞ける環境があるので継続したいと思います。	管理者や理事は職員に声かけをして、日頃から意見を聞くようにし、時には個別に面談をしている。ヒヤリハットは宝と考え、職員に提出を促している。職員からの意見や提案は申し送りノートで情報共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入しています。また月に一度社会保険労務士と面談をして、よりよい職場環境を模索しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回内部研修を行っている。外部研修については、希望者を募り、積極的に参加できるようにしています。シフト調整や資金援助も行っています。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流・見学はできておりません。アフターコロナを見据えて、見学したい法人、会社のピックアップをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。ここにはタイムスケジュールにそった業務はありません。その分入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様のことでわからない事が多々あるので、積極的にご家族にコンタクトをとって情報収集しております。その際、御家族との関係性が構築されてくると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限やっているつもりですが、ご本人に適切な支援の見極めがどれくらいできているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できていない職員もいますが、自立の支援が使命なのでご自分でできることは極力して頂きます。そのため暮らしを共にする者どころか入居者様が先生、職員が生徒という場面に頻繁に遭遇します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはなりません。入居者様・ご家族と共に悩み、考えるスタンスは持っているといます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも安全性を確保し、管理者の判断でドライブと称して入居者様のご自宅に行ったりしている。	車通りが少ない散歩コースを一周することで近所の人や散歩をしている住民に会うので、馴染みの関係になっている。コロナ前は畑を手伝ってくれる近隣住民もいた。家族との関係は途切れることなく継続できるように支援している。	

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状により暴言を吐いてしまったり、誤解を招くような発言をしてしまう方もいますが、そういう方が孤立しないよう職員たちが間に入り適切な支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔を見たり、ご家族に様子を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接で、入居者様の思い・希望・意向を聞きご家族にも話を伺っております。ご本人の表情を見て安心できる時間の過ごし方や好きなこと、得意なこと等を検討しプランニングにいかしています。	入居前には本人や家族に思いや意向を聞くようにしている。その記録を職員が共有できるように現在書式を変更する作業を行っている。	職員によって、気づきのレベルに差があるため、全ての職員が利用者の意向をくみ取れるように研修やレベルチェックを行ってください。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」という独自のフォーマットをご家族様に記入して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合います。引継ぎ内容はケース及びノートに記録し共有します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人・ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに生かしています。	利用者には職員が担当制をとっており、毎日の申し送りや業務日誌から利用者の日頃の様子を把握している。介護計画の更新時には管理者とケアマネジャー、担当職員で話し合っており訪問看護師や医師の意見を参考にし介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきや工夫をケース記録として入力しているものの、分析し次のプランへの情報として生かしていないのが現状です。情報の共有もまだまだ改善の余地があります。一番の改善点として考えております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と相談して、外出・外泊をしたりしています。またコロナ禍でビデオ通話を使っての面会や野外での面会を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活動に限りはありますが、施設周辺道路の草取りを入居者様と行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助をし、日ごろの様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他受診についてはご家族に協力頂いております。	入居前のかかりつけ医を継続している利用者は1人で家族が対応している。協力医は体調の急変時はいつでも電話で対応してもらえ、週に1回訪問看護師が来所する体制を整えている。家族の希望で訪問歯科医の往診も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護ステーションに入ってもらっております。職員からの気になる入居者様の相談を受けていただき、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供しています。治療が円滑に行われるよう、管理者、ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできる医療的ケアな終末期の対応について説明し、家族の意向を確認しています。今現在は例がありませんが、主治医の往診や訪問看護師との連携は取れる状態にあります。	入居前に重度化終末期の施設の対応を説明し契約書で意向を確認している。事業所でできることを説明し、協力医や訪問看護師と連携する医療体制作りがされている。職員の研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応の研修は行いましたが、定期的にはできていません。現状としては昼夜問わず管理者に連絡し指示を仰いでいる状況です。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全面的見直しが必要だと思います。地域との協力体制もまだできていません。	年に2回、日中、夜間を想定した防災訓練を行っている。職員の連絡網も整備されており、備蓄はリストを作成して管理している。飲料水はタンクに貯められ、ソーラーシステム、電気自動車を所持し、停電対策をしている。	職員の連絡網訓練は行われていないので実施できるよう計画し、季節想定への対応についても話し合っ対策を立てる事を希望します。コロナ後は地域住民との協力体制が取れるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを軸に職員教育をしています。職員ごとにその理解や実践にばらつきがあります。Zoomを使った研修を積極的に行い、言葉かけが重要かということ伝えていきたいと思っています。	パーソンセンタードケアについての研修に力を入れており、調査当日も利用者に対する声かけは丁寧で声のトーンも適切であった。少しずつ職員に浸透している様子が伺われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの提案もありますが、入居者様との会話をしているいろいろなニーズを聞き、ご本人に決めていただけるように努めております。聞きっぱなしで実現されないということにならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三食のおおよその時間は決まっております。それ以外は決めず、比較的に利用者様のペースで過ごして頂けるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母の日、クリスマス、敬老の日等でご家族からプレゼントされた衣服や小物を身に着けていただいたり、職員が入居者様にマニキュアを縫ってさしあげたりします。もちろん決めるのはご本人です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在月曜日の朝食、水曜日、金曜日の昼食を入居者様と一緒に調理しております。コロナ禍で買い出しに行くことはさけていますがいずれは一緒に行く予定です。	昼食時には三角巾を付けて、テーブルをふく、盛り付けをする、お茶を入れて運ぶ等役割分担をしてできることを行っている。月曜日の朝食、水、金曜日の昼食は利用者職員で畑の野菜や差し入れを活用して作っている。外出予定のミニ遠足では手作りのお弁当を持参する計画をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしております。散歩や活動をするたびに水分補給はしています。また、法人内の管理栄養士に食携帯やカロリー数の相談をしております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に入ってもらったおかげで、口腔ケアの職員の意識が高まったと思います。訪問時に質問、指導して頂けるので助かります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレはなく、ユニットごとに3か所トイレがございます。トイレに行くにも歩いてもらいたいと思います。一人でも多くの方に布パンツで過ごしていただけるよう模索しております。	排泄表の記録を参考にパターンを把握して、トイレ誘導を行っている。現在布パンツ使用者は6人いる。できるだけトイレで継続して排泄してもらえるように夜間もポータブルトイレを使わず、見守りや介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯を炊くときに毎回麦を入れております。管理栄養士と植物繊維を摂取できるよう相談しております。ですが半数前後の入居者様が下剤を使っているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に予定されている入浴日には強制的に入浴させることはありません。拒否が強い入居者様には時間をずらして声かけ趾、アプローチの仕方も多角的にしています。	週に2回、午後に入浴してもらっている。ゆったり入浴してもらえるように時間で区切ることをせず、利用者と職員とゆっくり話ができるのを楽しみにしている。入浴時に知り得た情報は連絡ノートで情報を共有している。拒否の強い人には声かけやアプローチを職員が連携、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンという仕組みを導入しており、夜間帯みまもりはしておりません。安眠を確保する取り組みと考えております。また食後はソファで転寝をされている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携して服薬ロボットという仕組みを導入しております。薬剤師が薬のセットをするので職員の精神的な負担を軽減できていると考えております。職員は薬手帳を見て一人一人の薬情報を把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り日常生活の家事にさんかしてただ畑の収穫物で調理したりしています。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であっても日常的に散歩は行っています。入居者様の様子を見て管理者の判断でドライブに行ったりしております。	事業所の周辺は交通量が少ないので天気の良い日には散歩に出かけたり畑に行ったりしている。訪問日にも職員と散歩に出かける姿が見られた。また、ウッドデッキも広く椅子が置かれ、日光浴ができる。コロナ終息後は家族と一緒にの外出を目指している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い用の財布を皆さんお持ちなので、近くのドラッグストアに好きな物を買いにいたりしていました。現在はコロナの関係で買い物は中止しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話をしてもらっております。最近ではLINEを使ったビデオ通話面会もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに建具、家具の色が違います。2ユニットのリビングとウッドデッキを合わせてひとつのリビングと考えております。出入りは自由です。日中は音楽を流しており、また、アロマで香りも楽しんで頂いております。	リビング、食堂は十分な広さが確保されていて、好きな所でくつろげる。ウッドデッキには天気が良い日は洗濯物や布団が干され、穏やかな生活が感じられた。室内には共同で作成した季節の作品が掲示してあり、利用者の好みの曲が流れている中で、利用者は職員と一緒に清掃などの環境整備も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きめのリビングテーブルがある一方、1人用にできる小さめのテーブルが3台あります。一人で作業に集中したいときに使用したり、柔軟に対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストは施設で用意しました。ベットはレンタルを使う方が多いですが、今までの生活が布団の方はもちこんで使用して頂いております。	利用者は、自分の居室の清掃ができる方が多く、清潔に保たれている。見やすい位置に家族の写真が飾られ、備品のチェストは好きな位置に移動することができる。季節の布団や衣類は自宅に保管してもらい、交換を家族にお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な建物内部となっておりますが、入居者様の状況を見て張り紙を貼ってご自分の部屋を認識してもらったり、ここがトイレだとわかるようにしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297201002		
法人名	医療法人社団光久会		
事業所名	グループホームふなぎら		
所在地	静岡県浜松市天竜区船明436		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297201002-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 10 月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を目標に掲げて活動しております。入居者様ごとに様々な人生を歩まれてきたと思います。専業主婦だった方、学校の先生だった方、大工さんだった方。その方の人生からヒントを頂戴して、その方たちの得意な事、こだわっている事、好きな事等を探り、自宅と比べ窮屈な入居生活を少しでもご本人らしく過ごしていただければと考えております。また、コロナの中で全然できておりませんが、地域に開かれたグループホームになるよう、様々な取り組みをしたいと考えております。今期は入居者様の体力維持・向上を事業所目標としまして、日々の散歩や畑仕事、樹木の水やり等を積極的に実施しております。そしてアフターコロナも見据えて、全員での外出を目標にして活動の動機づけにして頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「自立支援の実践」です。個々の職員の意識、理解度に差はありますが、現在はその意識統一をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を届けたり、散歩時の挨拶をする事で日常的に交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自身が認知症の人の理解や支援で日々模索している状態なので、地域には発信できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議自体が書面開催になっています。まずは通常の面会が出来るような状況になり、ご家族に事業所の活動を見ていただきたいと思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より浜松市介護保険課とは質問や相談を常に早め早めに行っている。協力関係は築けていると思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の方に身体拘束しても、状況が悪くなるだけなのでしておりません。玄関は日中施錠しておりません。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の全事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強会を開催している。また、参加できない職員のためその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の全事業所をwebでつなぎ、オンタイムで勉強会を開催している。また、参加できない職員のためその様子を録画しYoutubeで視聴できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者、施設ケアマネ2名で対応し、不安や疑問に丁寧に回答するよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者・外部見識者とじっくりと意見できるような運営推進会議を集ってできませんが、文書での形を取らせて頂いております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はとて多く助かっている。特別な機会を設けなくても業務内で意見・提案を聞ける環境があるので継続したいと思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入しています。また月に一度社会保険労務士と面談をして、よりよい職場環境を模索しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回内部研修を行っている。外部研修については、希望者を募り、積極的に参加できるようにしています。シフト調整や資金援助も行っています。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの関係で交流・見学はできておりません。アフターコロナを見据えて、見学したい法人、会社のピックアップをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく安心してもらおうという気持ちで接してもらっています。ここにはタイムスケジュールにそった業務はありません。その分入居者様とのコミュニケーションの時間は取れていると思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居して頂いた後、入居者様のことでわからない事が多々あるので、積極的にご家族にコンタクトをとって情報収集しております。その際、御家族との関係性が構築されてくると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やれることは最大限やっているつもりですが、ご本人に適切な支援の見極めがどれくらいできているのか、今後の検討材料だと考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できていない職員もいますが、自立の支援が使命なのでご自分でできることは極力して頂きます。そのため暮らしを共にする者どころか入居者様が先生、職員が生徒という場面に頻繁に遭遇します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ごとに様々な事情があるので均一にはなりません。入居者様・ご家族と共に悩み、考えるスタンスは持っているといます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも安全性を確保し、管理者の判断でドライブと称して入居者様のご自宅に行ったりしている。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状により暴言を吐いてしまったり、誤解を招くような発言をしてしまう方もいますが、そういう方が孤立しないよう職員たちが間に入り適切な支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから法人関連施設に移動した入居者様がいますが、移動先の施設に行き顔を見たり、ご家族に様子を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接で、入居者様の思い・希望・意向を聞きご家族にも話を伺っております。ご本人の表情を見て安心できる時間の過ごし方や好きなこと、得意なこと等を検討しプランニングにいかしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて、入居者様、ご家族に伺ったり、「暮らしのシート」という独自のフォーマットをご家族様に記入して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に入居者様の変化と対応を管理者、ケアマネが参加し話し合います。引継ぎ内容はケース及びノートに記録し共有します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員の情報やご本人・ご家族に提示、承諾を得ています。また訪問看護師や主治医の見解も参考にしてプランに生かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきや工夫をケース記録として入力しているものの、分析し次のプランへの情報として生かしていないのが現状です。情報の共有もまだまだ改善の余地があります。一番の改善点として考えております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と相談して、外出・外泊をしたりしています。またコロナ禍でビデオ通話を使っての面会や野外での面会を実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活動に限りはありますが、施設周辺道路の草取りを入居者様と行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所をかかりつけ医としています。通院援助をし、日ごろの様子を職員が伝えます。ご家族が希望される他受診についてはご家族に協力頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護ステーションに入ってもらっております。職員からの気になる入居者様の相談を受けていただき、様々なアドバイスや受診の必要性の有無の助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供しています。治療が円滑に行われるよう、管理者、ケアマネが協力してご家族と病院関係者との調整を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできる医療的ケアな終末期の対応について説明し、家族の意向を確認しています。今現在は例がありませんが、主治医の往診や訪問看護師との連携は取れる状態にあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応の研修は行いましたが、定期的にはできていません。現状としては昼夜問わず管理者に連絡し指示を仰いでいる状況です。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の各地の水害を見ていると、避難方法の全面的見直しが必要だと思います。地域との協力体制もまだできていません。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアを軸に職員教育をしています。職員ごとにその理解や実践にばらつきがあります。Zoomを使った研修を積極的に行い、言葉かけが重要かということ伝えていきたいと思っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの提案もありますが、入居者様との会話をしているいろいろなニーズを聞き、ご本人に決めていただけるように努めております。聞きっぱなしで実現されないということにならないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三食のおおよその時間は決まっております。それ以外は決めず、比較的に利用者様のペースで過ごして頂けるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母の日、クリスマス、敬老の日等でご家族からプレゼントされた衣服や小物を身に付けていただいたり、職員が入居者様にマニキュアを縫ってさしあげたりします。もちろん決めるのはご本人です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在月曜日の朝食、水曜日、金曜日の昼食を入居者様と一緒に調理しております。コロナ禍で買い出しに行くことはさけていますがいずれは一緒に行く予定です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食後チェックしております。散歩や活動をするたびに水分補給はしています。また、法人内の管理栄養士に食携帯やカロリー数の相談をしております。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に入ってもらったおかげで、口腔ケアの職員の意識が高まったと思います。訪問時に質問、指導して頂けるので助かります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレはなく、ユニットごとに3か所トイレがございます。トイレに行くにも歩いてもらいたいとの思いです。一人でも多くの方に布パンツで過ごしていただけるよう模索しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯を炊くときに毎回麦を入れております。管理栄養士と植物繊維を摂取できるよう相談しております。ですが半数前後の入居者様が下剤を使っているのが現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に予定されている入浴日には強制的に入浴させることはありません。拒否が強い入居者様には時間をずらして声かけ趾、アプローチの仕方も多角的にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンという仕組みを導入しており、夜間帯みまもりはしておりません。安眠を確保する取り組みと考えております。また食後はソファで転寝をされている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携して服薬ロボットという仕組みを導入しております。薬剤師が薬のセットをするので職員の精神的な負担を軽減できていると考えております。職員は薬手帳を見て一人一人の薬情報を把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り日常生活の家事にさんかしていたら畑の収穫物で調理したりしています。		

静岡県(グループホームふなぎら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であっても日常的に散歩は行っています。入居者様の様子を見て管理者の判断でドライブに行ったりしております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い用の財布を皆さんお持ちなので、近くのドラッグストアに好きな物を買いにいたりしていました。現在はコロナの関係で買い物は中止しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話をしてもらっております。最近ではLINEを使ったビデオ通話面会もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに建具、家具の色が違います。2ユニットのリビングとウッドデッキを合わせてひとつのリビングと考えております。出入りは自由です。日中は音楽を流しており、また、アロマで香りも楽しんで頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きめのリビングテーブルがある一方、1人用にできる小さめのテーブルが3台あります。一人で作業に集中したいときに使用したり、柔軟に対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストは施設で用意しました。ベットはレンタルを使う方が多いですが、今までの生活が布団の方はもちこんで使用して頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別な建物内部となっておりますが、入居者様の状況を見て張り紙を貼ってご自分の部屋を認識してもらったり、ここがトイレだとわかるようにしております。		